

令和6年度 特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立三笠小学校（外10校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の編成の方針に係る公表に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針に係る公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立三笠小学校	http://www.kashima.ed.jp/~mikasa-el/wp/?page_id=24990

2. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月
2018年4月 変更

* 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

4. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力の世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

5. 実施の効果、課題および方向性

(1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

本校では教育目標を「夢や希望をはぐくみ 個性を生かして学ぶ児童の育成」とし、児童の学ぶ意欲を向上させ、一人一人が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりを行っている。第1、2学年における外国語活動の効果と課題は以下のとおりである。

- ・音楽や動画、ワークシート等を活用し（文字を介さずとも）、会話を通して学ぶことができている。
- ・ALTが児童の発達段階に合わせた英語の歌やゲームを作成し、児童が楽しみながら英語学習（第二言語学習）に取り組むことができている。

- ・ 苦手意識をもっている児童が、「英語が楽しい」と感じることができるよう、学習課題や活動内容などをさらに工夫していく。

(2) 課題の改善のための取組の方向性

- ・ 低学年の児童が外国語活動に意欲的に参加できるよう、
TPR (Total Physical Response) や歌、チャンツ等、英語の文字を介さずともできる活動を行う。
- ・ 低学年児童の理解が深まるよう、
世界の国旗や身の回りの物から、色や形・食べ物の言い方や表現を学習する。
- ・ 児童のコミュニケーション能力が高まるよう (相手に配慮しながら自分の気持ちや感情を伝える)、
非言語 (ジェスチャー、アイコンタクト等) の大切さも注目できるようにする。
- ・ 学習した内容を児童が活用 (実際の会話、パフォーマンステスト) できるよう、
授業開始後の挨拶の時間や、Small Talk の時間に既習事項を繰り返し活用する活動を行う。
- ・ 児童同士がより自然に会話ができるよう、
Repeat や Reaction、Ask question、Plus1 等、会話を継続させるための話し方 (テクニック) を活用する場面を積極的に設定していく。
- ・ 個人のペースや方法で (個別最適な学び) 英語学習に取り組めるよう、
教科書だけでなく、AI ドリル navima や、オンライン学習 English 4skills 等を活用しながら、4 技能の向上を目指していく。
- ・ 保護者に学校での取組を理解していただけるよう、
学校のホームページを活用し、年間の学習計画や Can-do リスト、授業での様子などを紹介する。